

熊本県議会議員

坂田孝志

第26号

令和7年  
1月1日発行

# 県政報告

坂田孝志事務所  
〒869-4701 八代市千丁町太牟田1300-3  
TEL0965-46-2200 FAX0965-46-1707  
URL <http://www.sakata.gr.jp>  
E-mail [takashi@sakata.gr.jp](mailto:takashi@sakata.gr.jp)

住宅の耐震化対策拡充!!

九月定例県議会一般質問  
先陣を切り登壇



# 令和6年9月定例県議会（一般質問）抜粋

## 1. 農政の推進

### (1) 食料安全保障上の観点から農業農村整備事業の推進

【質問】 (1) 全国の農業水利施設はその半数が標準耐用年数を超えており、本県でも同様の状況である。八代平野地区では、本年3月以降の豪雨で農業水利施設の大規模な災害が発生し、関係機関の必死の仮復旧対応で何とかしのいでいる。全国の食料生産供給基地の役割を担う本県で、農業用施設の計画的な保全の必要性を痛感している。農業農村整備事業の実施により潤沢な農産物を生産し、本県の役割を果たすことが最も重要と考えるが、県の取組状況と今後の対処について、知事の所見を伺う。



一般質問する坂田県議



豪雨で被災した遙拝頭首工(3月)と不知火幹線(6月)

【答弁（知事）】 (1) 本県の農業産業は、日本の食料安全保障の一翼を担い、中でも農業用施設は大変重要な役割を果たしている。特に排水機場は、県民の生命等の保護に大きく寄与しているが、その多くは老朽化している。近年は排水能力の強化等も

望まれており、安定的な予算確保が必要で、国にしっかりと財源確保を求めている。引き続き、水利施設の計画的な更新等を推進し、農業農村整備に取り組んでまいらる。

### (2) 担い手対策の拡充

【質問】 (2) 県は本年6月議会で、就農時50歳代の県内居住者にも新規就農者支援を拡充した。49歳以下の場合には、新規就農者育成総合対策事業の就農後支援等、国の手厚い制度が構築されている。しかし、就農後支援の経営開始資金は、親元就農の場合には親と違う作物でなければ支援対象にならない。実践経験のない者がいきなり親と違う作物で収益を上げられるはずがない。今こそ県独自の親元支援策を構築し、国に制度の矛盾を訴えるべきと考えるが、知事の考えを尋ねる。

【答弁（知事）】 (2) 私は、本県の農業政策の要諦は担い手対策にあると考え、先般、大規模なアンケート調査を行った。その中で親元就農者は、安定した農業経営等から、改めて重要性を認識した。

【答弁（知事）】 (1) 本県の農業の場合、親と異なる新たな作物の導入は全く現実的でなく、親元就農等で区分しない一律の支援が必要であり、制度の見直しを国に強く訴えてまいる。  
2. TSMCの波及効果をより広く、より大きく

### (1) 熊本におけるサイエンスパークの創設

【質問】 (1) 台湾の新竹サイエンスパークは、スタートアップ企業に資金を支援するなどすばらしいシステムを構築し、パーク周辺は産官学が理想的な形で一体となっている。一方、県内にはセミコンテックノパークなど半導体サプライチェーンの企業群があり、教育や研究機関と連携する構想等もある。国も台湾政府も乗り気で、まさに千載一遇のビッグチャンスである。TSMC工場周辺に限らず、熊本全体を俯瞰して熊本版サイエンスパーク構想を進めるべきと考え、知事の率直かつ大胆な考えを尋ねる。

【答弁（知事）】 (1) 私は、熊本版サイエンスパーク構想実現のため、先月、台湾の新竹サイエンスパークを視察した。ただ、台湾と日本では法制度が異なるなど、同様の手法は我が国では困難なため、本県独自のサイエンスパークを検討すべきである。具体的なエリアとしてセミコンテックノパーク周辺があるが、一つにまとまった工業団地にするのではなく、必要な機能を分担、連携し、このエリアを核とした展開を考えている。研究機関等の立地でさらなる産学連携が進み、人材育成も含めた相乗効果が生まれるまちづくりを目指してまいる。

### (2) 県営八代工業団地の整備

【質問】 (2) 昨年の12月議会で八代地域での県営工業団地整備が表明されたが、いまだに全容が見えない。八代は今後発展が見込まれる交通結節点で、ポテンシャルは極めて高い。日本の経済安全保障上、半導体製造の全工程を国内で賄うことは重要であり、八代の工業団地にはこうした企業立地が期待される。そのことが九州シリコンアイランド構想や熊本版サイエンスパーク構想にもつながる。そこで、県営八代工業団地整備の進捗状況について、知事に尋ねる。



県営八代工業団地予定地

【答弁（知事）】 (2) 八代地域での工業団地の整備は、TSMC効果を全県に広げるといふ極めて重要なミッションを県南地域で実現するための中核となる取組である。県では、可能な限り早急に候補地選定の検討を行う



た結果、市内陸部で約25ヘクタールの工業団地を整備することとし、近く整備箇所等を公表したいと考えている。分譲開始時期は令和10年度を目標とし、地元の雇用確保や地域の活力につながる企業を積極的に誘致してまいる。



答弁される木村知事

### 3. こどもまんなか熊本を標榜する多子世帯子育て支援事業

【質問】 子育て現場の第一線で活躍する熊本県保育協会から、国に先駆けた3歳未満児の保育料の無償化の要望が挙がっている。かつての県の保育料施策は、子供が3人以上の世帯で3人とも保育園に在園の場合、第3子の保育料を無償化するもので、限られた世帯しか該当しない制度であったが、私が八代市長の時に、第1子、第2子の状況に関わらず、第3子が保育園に在園していれば、第3子の保育料を無償化する制度改正に取り組んだ。それから20年近く経

ち、現在3歳以上の保育料は全く無償だが、国の制度では完全無償化には程遠い状況である。全国には無償化に取り組む都道府県があり、県内でも13市町村が第1子からの無償化に取り組んでいる。本県でも無償化を検討し、議論を始めてはどうか。知事の所見を伺う。

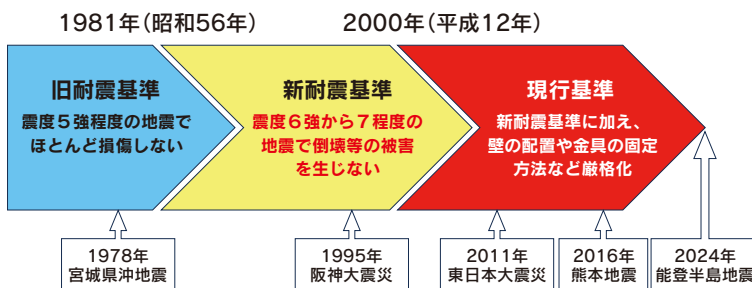
【答弁（知事）】 こどもまんなか熊本は県政の最重要課題の一つで、こどもまんなか熊本・実現計画を今年度中に策定予定である。保育料について、現在、国は全ての3歳から5歳児を無償化し、0歳から2歳児のうち、就学前に3人以上の兄弟がいる世帯の3番目以降の保育料を無料にしている。本県独自の支援策として、国の就学前までの18歳未満までに基準を引き上げ、支援の拡充を図っているが、福祉等の経済的支援は地域間で差が出ないよう国が一律に行うべきと考える。今後も国へ強力に働きかけるとともに、子育て支援策の分野の重点化等について全庁的に議論してまいる。

### 4. 大地震に備える住宅の耐震化対策の拡充

【質問】 木造住宅の耐震基準については、昭和56年以前の旧耐震基準、昭和56年施行の新耐震基準、平成12年施行の現行基準の3つに区分される。本年1月の能登半島地震では、現行基準に基づく建物の全壊等が1割未

満だった一方で、大きな被害は古い耐震基準の住宅に集中していることが判明した。本県の耐震診断等の対策が、昭和56年以前に着工されたものが補助要件となっていないため、現行基準に満たないものも適用すべきと県に再三申し入れていたが、能登半島地震の被災状況を受け、県に再度その点を問いただした。県は、ようやく今議会で補助要件を現行基準に満たない住宅に見直すとしているが、今回の見直しの経緯等について尋ねる。併せて、拡充策の具体的な内容と県民への周知について、亀崎副知事に伺う。

## 建築基準法の耐震基準の推移



答弁される亀崎副知事

【答弁（亀崎副知事）】 県では国の方針に即して、旧耐震基準に基づく住宅等の耐震性向上のため、平成19年度から耐震診断事業を実施し、平成29年度からは耐震改修等を行う住宅耐震化支援事業を開始した。能登半島地震では、現行基準を満たさない新耐震基準の住宅でも約25%が全壊との報告があり、このため支援対象を現行基準を満たさない住宅とするなど支援策を拡充した。拡充の具体的な内容は、支援対象の拡大と一定期間の住宅所有者への補助額の増額である。県民への周知については、耐震化の意識向上が重要であり、市町村広報等も活用し丁寧な説明等を行ってまいる。

### 5. 八代・天草シーライン構想の推進

【質問】 八代・天草シーライン構想は、ようやく構想路線に位置づけられたが、まだ計画路線には至っていない。平成元年、

八代・天草架橋建設促進期成会が発足し、令和3年2月、八代・天草シーライン建設促進協議会が設立、同年には県や国の計画の構想路線に位置づけられ、この構想を推進すべく地元の機運醸成を図っている。要望活動では、国交省等に事業化に必要な調査等の早期着手を訴えている。本年1月の能登半島地震では半島がゆえの脆弱性が指摘されており、天草地域においても緊急時の代替ルートの確保は必要不可欠である。災害に強いだけでなく、地域の発展等に大きな効果等をもたらすこの構想の必要性は、必然的に高まっている。知事はこの構想についてどう考え、今後どう進めていくのか、見解を伺う。

【答弁（知事）】 八代・天草シーライン構想は、実現の暁には県南・天草地域の地方創生や強靱な県土づくりに高い効果を発揮すると認識している。この構想の実現には、地元の機運をさらに高め、国に必要性等を強く訴え、構想路線からの格上げをしっかりと主張していくことが重要である。構想実現に向け、本年8月に設立したシーライン勉強会で地域の課題整理等を検討してまいる。今後も八代・天草シーライン構想推進大会の開催等、引き続き地元の機運醸成を図り、熱意を国に伝え、構想の早期実現に向けた取組を推進してまいる。





金子代議士  
9期目飾る

選対本部長として、出陣式で金子候補への支援を訴える 10/15



木村新知事  
誕生する

木村候補の街頭演説に蒲島知事、鳥取県平井知事揃って応援に駆けつけられる 3/17



い草の里まつりで最優秀の市長賞の小嶋新吾さんとツーショット 3/3



坂田孝志を囲む新春の集い、蒲島知事、木村副知事と共に乾杯! 2/10



氷川町消防団出初式に於いて消防団員を鼓舞する 1/21



坂本農林大臣へ農業農村整備事業予算を要望する 6/10



ふる郷愛鏡祭で来場者に餅を振る舞う 5/26



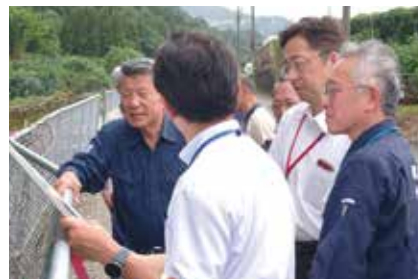
道の駅秘境の郷いずみ開駅式で祝辞を述べる 4/20



八代くま川祭りで参加者と共に大いに盛り上がる 8/3



八代・天草シーライン建設促進市議連総会で必要性を訴える 7/23



木村知事、北林農政局長に不知火幹線水路の被害状況を説明する 6/30



農林省渡辺事務次官に農業の窮状を切々と述べる 11/7



東陽しょうが祭りで生産者のご苦労を讃える 10/27



カンボジア開発評議会のスウォ・ソファール閣下に県の雇用情勢を説明する 10/10



道路財源を求める都道府県議会世話人会で地方の窮状を訴える 11/12



坂本ふるさと祭で豪雨災害の復旧復興状況を述べる 11/10



自民党森山幹事長に農業農村整備予算の拡充を求める 11/7

各地の様々な行事に積極的に参加し、あらゆる要望を精力的に中央に届ける!